

「寺田縄」 地名の由来

(1) 「寺田縄」の表記 『寺棚 → 寺手縄 → 寺田縄へ』

私たちの暮らす寺田縄の地名ですが、古くは1500年代の前半頃に記された「系譜けいふ総覧そうらん」という書物によると、「寺棚てらたな」とされています。1500年代の中頃の「北条氏ほうじょうし所領役帳しよりょうやくちょう」（以後「役帳」と記します）には「寺手縄てらてなわ」と記され、「寺棚」、「寺手縄」の表記は、いずれも、私たちの住んでいる寺田縄のことを示しています。

「寺田縄」の三文字は、1700年代の後半頃に記されたと考えられる「相州大住郡寺田縄村そんちゅうひやくしやう 村中百姓しゅうちゅうおほえ（性）衆中覚」（以後「覚」と記します）に使われています。また、江戸時代の天保年間に編纂された「新編相模国風土記稿しんべんさがみのくにふどきこう」（以後「風土記稿」と記します）にも「寺田縄」と記されています。

寺田縄村の範囲や領域（広さ）については、江戸時代になり村全体の水田などの面積を計り年貢徴収のもととした「検地けんち」の史料が残されています。

(2) 寺田縄の読み方 『てらたな → てらてなわ → てらたな』

「寺棚」、「寺手縄」の地名を、どのように発音したかは、音による記録がありませんので不明です。しかし、文字通りに発音すれば、「寺棚」は「てらたな」、「てらだな」となり、「寺手縄」は「てらてなわ」となると思います。

「覚」にある「寺田縄」の発音も分かりません。「風土記稿」の寺田縄村の条には「天羅太奈牟良」と読みが記されていますので「てらたなむら」と発音します。「てらだなむら」でも「てらだなわむら」でもありません。

地名や物・道具の名前は読まれ、使われ続けるうちに年を経て、微妙に変化していくのが常です。現在では文字通りに「てらだなわ」と読む人が多いようです。

(3) 地名の由来

なぜ、そのような地名がつけられたのかについても、諸説あります。

「寺棚」、「寺手縄」、「寺田縄」。いずれにも「寺」が使われています。加えて、「棚」、「寺田」、「縄」、「手縄」と実に意味深長です。この文字を分けて考えると、次のようになります。

*「寺」について

「寺」は“この地域に建立されていた寺院を意味する”と解釈する人がいます。今、寺田縄には、吉祥院と蓮昭寺の二つの寺院がありますが、「覚」には、宝正院、蓮照寺、吉祥院、東善寺、蓮昭寺の五寺院を数えます。東善寺は今の吉祥院の場所で、吉祥院はもう少し北側にありました。宝正院、蓮照寺の存在した場所は不明ですが、寺田縄村には五つの寺院があったこととなります。“寺の多い村”を意味するのでしょうか？

「寺」の解釈について、「中郡勢誌」(中地方事務所 昭和28年)には、『寺田は寺山(東秦野村の大字)、寺坂(国府村の大字)と同趣で、照田即ち日光の良く照らす田という意味の美称である』と断言しています。

「寺」は「照る」を意味するのであって、寺院のことではありません。

*「棚」について

「系譜総覧」にある「棚」は、解釈の術がありませんが、寺田縄は地形的に、西側の飯島方面が高く、東に行くにしたがって低くなるという特徴があります。単純に考えると、水は高いほうから流れるという水流の関係で、田畑を開く時には、自ずと、西から東に下がるので、段を作り平たい農地を設けなければなりません。現在でも飯島と鈴川寄り土地の高さは約6mも違います。二階の天井くらいの高さになります。

機械の力が乏しく、耕地整理の進んでいない昔、田畑を作るには自然の地形に従わざるを得ません。“「棚」は段々のように作られた耕作地、棚田を意味している”片山の推論です。

「寺棚」は、“太陽が燦々と降り注ぐ稲穂に満ちた棚田”となります。戦国時代の名称です。

*「縄」、「手縄」について、

前出の中郡勢誌には『おそらく荘園時代(糟谷庄)に、空闲地即ち荒地の開墾を願うと、縄延べを以て大凡の検地をして、年貢の軽減をもってこれを奨励したので、縄延測量地の意味である』と記されています。

耕地の広さを測量するのに「縄」が使われていました。学校で教わった歴史の教科書の挿絵に、「太閤検地」の様子が記されていたことを思い出す人もいるでしょう。水田の角に竹の棒を立て、縄を張り、面積を測量している図です。これが「縄延べ」、「縄打ち」です。この縄を使った測量の方法は、江戸時代の検地でも行われていました。

寺田縄の北に位置する岡崎には北大縄、南には大縄や大縄橋という地名があり、「縄延べ」測量を思わせます。『寺田大縄が略されて寺田縄となった』と中郡勢誌は述べ、寺田縄の地名にも「縄延べ」を連想させます。

読みかえれば寺田縄とは“太陽が^{さんざん}燦々と降り注ぐ、実り多い水田地帯の広さを計るために縄延べした所”となります。

他の考えでは、「寺田」を、寺の所有する水田のことで、その寺を^{きちじょういん}吉祥院としています。“寺田縄の地名は、^{じりょう}吉祥院の寺領の水田を検地する際の縄打ちに関連したものであろう”と^{すいろん}推論しています。

諸説を示しましたが、これという確たる説はありません。^{めいめい}命名の^{けい}経緯を記す文書がないためです。